

NYPDの警察官採用事情

2010年12月27日、市内マディソン・スクエア・ガーデンにて、ニューヨーク市警(以下、NYPD)警察学校の卒業式が挙行されました。当日はあいにくの大雪のため、私自身は参席できませんでしたが、今回、6ヶ月の初任教養を終え、晴れて警察官となったのは1,147名で、財政難のため採用抑制中のNYPDでは、2008年以降で最大規模の卒業式となりました。本稿ではNYPDの警察官採用事情について取り上げてみたいと思います。



恒例の卒業式直後の白手袋投げ

新任警察官の内訳

今回卒業した1,147名のうち、94名が2年以上の米軍勤務歴を有しています(これは2つの採用条件の1つ。もう1つは大学機関における60単位以上の取得)。人種は約26%がヒスパニック系、12%が黒人、6%がアジア系、白人の割合は55%となっています。卒業生の約15%が女性です。また、卒業生の18%(203名)は外国生まれの移民で、その出身国は50ヶ国に及びます(47言語)。

こうした背景には、財政難により採用が抑制されている中、多様化著しいニューヨークで警察職務を遂行する上で、言語のみならず、異文化や慣習に熟知する当該国出身者を確保することにより、採用後の人材育成費用を抑制という一石二鳥の効果を狙う意図もあるようです。

【卒業生の出身国(卒業生数)】*NYPDホームページより

1位	ドミニカ共和国(48)	6位	コロンビア(8)
2位	ハイチ(13)	7位	トリニダード・トバゴ(7)
3位	ジャマイカ(12)	8位	バングラデシュ、インド、韓国(6)
4位	ガイアナ、エクアドル(10)	9位	ホンジュラス、中国、ウクライナ(5)
5位	ポーランド(9)	10位	プエルトリコ(4)

以下

(3名) アルバニア、ペルー、パキスタン

(2名) ベラルーシ、ポルトガル、エジプト、イタリア、コソボ、キルギス、メキシコ、ルーマニア

(1名) アルゼンチン、バルバドス、グレナダ、グアテマラ、パナマ、ミャンマー、カンボジア

キューバ、ドミニカ国、英国、フランス、コートジボワール、カザフスタン、リベリア

ニカラグア、セントルシア、南アフリカ、スペイン、スーダン、トルコ、アラブ首長国連邦

ウズベキスタン、ベネズエラ、ベトナム

採用の現況

若干古い資料ではありますが、ニューヨーク・タイムズ紙（09年11月19日付け）によれば、長引く不況の影響と初年度給料の増額が、NYPDに質の高い警察官の採用を可能にしているとあります。

2008年度のNYPD採用試験受験者数は17,212名（前年比+54%。合格率は12%前後）で、黒人、ヒスパニック系、アジア系は2000年以降、女性警察官数と同様に着実に増加しています。1999年には、大卒の占める割合は17%でしたが、08年度には24%となりました。しかし同時に、NYPDは市の予算カットにより、優秀で多彩な経歴を有する警察官を思うように採用できないジレンマを抱えることとなります。

多くの新任警察官が、 厳しい求人市場、 警察官の待遇の良さの2つが警察官となった理由であることを明かしています。

NYPD 警察官の主な待遇（いずれも2010年現在）

新任警察官を魅了する待遇とは。NYPD ホームページをのぞいてみました。

1年目の総支給額は年間\$44,744 + 時間外手当（5年半後には\$90,829）



年間の有給休暇日数

1～2年目は10日、3～5年目は13日、5年目以降は27日

病気休暇日数

無制限（給与の全額支給）

医療保険制度の補償（歯科、眼科を含む。扶養家族全員分）

年金制度の充実（年間\$12,000）

勤続20年経過後の退職年金制度（退職時総年収の半額を生涯受給。併せて歯科、眼科を含む医療保険の保障もあり）

特に不透明な経済状況の中では、人々はより安定した職場（仕事）を求める傾向にあるのは古今東西を問わないようです。最近ではウォール街で数十億ドルを動かしていたディーラーが入庁した例もあります。

（中嶋所長補佐 警視庁派遣）